

# 舌扁平上皮癌と診断され、 入院全身麻酔下で手術を受けられた患者様へ

1. 現在、当院では「Stage I、II 舌扁平上皮癌における Tumor budding の臨床的意義の検討」という研究を行っています。

目的：この研究は東京歯科大学水道橋病院において患者様に高度な水準での癌医療を提供するため、過去に当科において加療を行った口腔癌患者様の術前、術後の標本を改めて見直すことにより、治療後の経過との関連を調査することを主な目的としています。

方法：患者様のカルテデータ、病理組織標本を使用し、性別、年齢、腫瘍原発部位、治療法、生存率等の臨床指標を調査・検討します。

※Tumor budding(簇出:ぞくしゅつ)は、癌発育先進部間質に浸潤性に存在する単個または5個未満の構成細胞からなる癌胞巣を指します。舌扁平上皮癌におけるガイドラインには組み込まれていませんが、日本癌治療学会における大腸癌治療ガイドラインにおいて術後性リンパ節転移の危険予測因子の一つであることが明記されています。

(癌胞巣：癌細胞が胞巣構造を呈し、増殖している状態)

2. 調査の対象は2007年4月1日～2016年3月31日に当院口腔外科において、舌扁平上皮癌と診断され入院し、全身麻酔下で手術を受けられた方です。
3. 資料は、個人を特定できる氏名を削除し、情報管理者により厳重に管理されます。
4. 本研究の成果は、学会で発表する場合がありますが、名前や個人を特定する情報は公表されることなく、個人情報を守られます。
5. 本研究は東京歯科大学倫理審査委員会の審査を経て、学長の承認を得て実施しています。
6. 本研究に協力できない場合は、その旨を研究責任者にお申し出ください。その際、患者様にとって不利益になるようなことはございません。
7. 本研究について質問あるいは疑問がある時は、いつでも下記問い合わせ窓口にご連絡ください。

お問い合わせ先  
東京歯科大学水道橋病院口腔外科  
研究責任者：大野啓介  
03-5275-1725